

令和2年度日南市立飫肥中学校 学校の自己評価及び学校関係者評価書

4段階評価

4 期待以上

3 ほぼ期待どおり

2 やや期待を下回る

1 改善を要する

評価項目	評価指標	方策・手立て	学校の自己評価コメント	自己評価		関係者評価	○ 結果の考察・分析、改善策 ※ 外部評価のコメント
				項目	総合		
【知育】 学力の充実	1 主題研の研究仮説を日々の授業で検証する。二極化対応として個に応じた指導・支援の充実を図り研究目標を達成する。	◇ 見通しのもてる授業 ・「目標」と「まとめ」の整合性、板書の工夫 ◇ わかる授業 ・個に応じた適切な指導・支援 ・正確に読み取る力の指導 ◇ 学習環境づくり ・特別支援教育の視点を取り入れた指導	○ 学力向上へ向け、研究テーマに沿った学年内検証授業を実践できた。その取組の充実により評価が高まった。今後は授業研究会の成果を全職員で実践する必要がある。	3.38	3	3	○ 今やりたい事が無くても良い。 ○ 読書は自立する上で大切である。 ○ 学力の結果、成績だけでなく、楽しい学校生活を送ってほしい。 ○ 評価がなかなか難しい。 ○ 学力向上が図られている。 ○ 個に応じた指導の成果を評価したい。
	2 個人内評価を重視した進路実現を目指す。	◇ 各種学力調査をもとに、経年変化により個人内評価の変容を把握する。3年生は希望高校への全員合格を目指す。	○ 多様性の考え方や個に応じた指導の必要性が広がり数値が高くなっている。この考え方を授業をはじめ、あらゆる場面で生徒の伸びを賞賛し高めていきたい。	3.38			
【徳育】 生徒指導の充実 豊かな心の育成	1 生徒指導の共通理解や共通実践を図りながら、個に応じた指導・支援を行う。	◇ 生徒指導における共通理解や共通実践の場の設定する。 ・火曜日の運営委員会での共通理解・手立て ・次週月曜日の職朝での共通理解・共通実践 ◇ 積極的な生徒指導を行う。 ・人権と平和を考える週間の道徳で、人権と平和の授業を実施する。 ・わかる授業の推進（最善の生徒指導の場）	○ 生徒指導の共通理解の場が毎週段階的に設定されているため、共通実践へつながり評価も高い。10月から情報モラル教育の手立てを講じているが、課題が山積みである。	3.53	3	3	○ 生徒指導の課題が山積みとあるが、教職員のチームワークが大切だと思う。 ○ 挨拶は心を込めて行えるよう、そして、形だけでなく、相手を思う事を大切にほしい。 ○ 校内での挨拶はよく分からないが、地域での挨拶は良くできている。 ○ 道徳の時間に外部講師を依頼しても良いのではないか。 ○ これからもキャリア教育は重要である。飫肥中学校の「自立・共生・感謝」をキーワードとした総合的な学習をこれからも充実させてほしい。
	2 道徳の授業の完全実施を目指す。	◇ 学級担任と副担任の連携を通して、副担任の積極的な授業の関わりを行う(TT、相互交換の授業等)。道徳の授業を通して生徒一人一人を見守る。	○ 評価の中に学年差、個人差がみられる。なお、授業においては、学校・学年を通した組織的な取組が必要である。生徒会主催による人権集会は異学年での交流が図れ、道徳心を育てる素晴らしい取組であった。	3.09			
	3 あいさつ日本一を目指す。	◇ さきがけあいさつを実践する。 ・校外外で気持ちのいいあいさつの活性化	○ 1・2回とも、3の評価に届いていない。引き続き、正門や青春ロードでの挨拶指導やテスト期間中の下校指導などで支援の充実を図ってほしい。併せて、生活委員会の主体的な活動も支援していきたい。	2.92			
	4 3年間を見通したキャリア教育を目指す。	◇ 意図的・計画的なキャリア教育の実践により「生き方」(自立・共生・感謝)指導を行う。 ・地域との関わり→社会との関わり→キャリアデザイン設計	○ 2回目の評価が高くなっている。地域の観光・教育資源を活用した取組や外部講師による生き方教育の実践、高等学校の説明会など、各学年ともキャリア教育の実践の成果である。	3.46			
【体育】 安全教育の充実 健康教育の充実	1 けがの未然防止を図る。	◇ 毎月1回、安全点検を行い、点検状況を全職員で共有し生徒への指導に役立てる。日常観察で迅速に器物破損等に気づく。(施設面の安全を未然防止へ)	○ 1・2回とも高い評価である。毎月の安全点検が実施できており、その後の教育委員会への報告ができています。今後も小さなことを見逃さず、安心安全な学校づくりに努めていきたい。	3.50	3	3	○ それぞれに合った運動、体を動かすように取り組んでほしい。 ○ 情報モラル教育は次年度も継続して指導してほしい。 ○ 安全な学校づくりを進めてほしい。 ○ 保健指導を進めて、健康教育を図ってほしい。
	2 けがや病気の見落としがない保健室経営に努める。	◇ 生徒一人一人の状況において、管理職や職員、保護者との連携を密にする。 ・健康チェックカードによる日常観察 ・フッ化物洗口を基にした虫歯治療率の向上	○ 1・2回とも高い評価である。学級担任による朝の健康観察、養護教諭による保健指導の成果である。また、新型コロナウイルス感染症対策も全職員で取り組んでいる。保護者への連絡も的確になされている。	3.69			
	3 情報モラル教育の推進により健康増進を図る。	◇ 情報モラル講演会を行い生徒指導とともに保護者への啓発を図る。 ・生徒会活動との連携	○ 10月にNTTドコモによる携帯・スマートフォン安全教室をリモートで行ったことで生徒に対する啓発はできたが、今後は保護者や地域への啓発必要である。	3.53			
【特別支援教育】 支援体制の構築	1 保護者との相談活動を充実する。	◇ 連絡ノート等の活用を通して連携を図る。保護者の気持ちを止め、対応策をともに考える。本人・保護者の意向を尊重しながら進路実現を果たす。	○ 1・2回とも高い評価である。4月の家庭訪問や参観日が実施できなかったが、長期休業日を活用して三者相談がなされた。さらに、学級通信や臨時の家庭訪問で保護者との連携が図れ生徒理解へと生かされている。	3.31	3	3	○ 共生社会という事は、いかに相手をを理解して受け入れるかだと思う。 ○ 外部との連携を積極的に行ってほしい。 ○ 前進しているようである。これからも体制づくりに励んでほしい。 ○ 連携による学力向上を大事である。
	2 様々な支援を要する生徒への学習環境づくりや学習支援を充実する。	◇ 生徒の実態把握と教育的ニーズを踏まえた指導・支援を行う。 ・学習環境づくり ・学習支援	○ 定期的な学校生活アンケートを活かしながら教育相談等を充実させ、生徒一人一人の個に応じた指導・支援が常にみられる。問題を抱えた生徒がおり改善を要するが、全員がより良い変容をみせている。	3.07			

次年度の方向性についての校長所見

全職員が一丸となり、生徒一人一人の可能性を伸ばし、知・徳・体のバランスのとれた生徒を育成するために「チーム飫肥中」を中心に据え、風通しのよい職場づくり、個に応じた指導・支援、報告・連絡・相談による効率的・効果的な役割遂行に取り組み、生徒や保護者に信頼され、地域に開かれた学校づくり励んでいきたい。また、特別支援教育体制の構築を図り、生徒の多様性に応じた指導・支援を充実させていきたい。